

令和6年度 第2回 みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会 審議概要

- 1 日時：令和7年2月27日（木） 10：00～12：00
 - 2 みんなの森 ぎふメディアコスモス 第一会議室
 - 3 出席委員：7名 高橋委員長、市来委員、大角委員、田代委員、デュアー委員、出村委員、松枝委員
（欠席委員：6名 川島副委員長、伊藤委員、岩佐委員、蒲委員、北村委員、鈴木委員）
- 傍聴者：なし

<議事概要>

① メディコスと民間との連携の可能性について

（委員からの意見）

- ・岐阜市役所は他の自治体に比べて公民連携の分野で遅れている。公民連携において重要なことは「関わり代」の提示であり、自分たちのやりたいことのみを押し付けるのではなく民間企業のアイデアも盛り込まれたものでないといけない。
- ・やりたいけどできないことが何かを言語化し、民間に情報を開示する経路を構築することが重要。そのうえで岐阜市役所は公民連携のリテラシーの見直しが必要。
- ・企業のほうがお金を持っていることは事実でこれからの時代、公民連携は無視することができない。
- ・公民連携を進めていくうえで、市役所の縦割り問題にも注目すべき。来館者や市民の想いをもう少し早く形にできる体制の構築が必要。
- ・民間企業と連携することでネットワークの拡大にもつながるので民間と市が交じるような独特な組織が形成できるという。
- ・公民連携の民を民間企業だけでなく市民の民と考えることも大切。ある国では市民ベースで物事を考えることが多く、行政と民間で協議するタイミングが設けられている。みんながやりたいことをやる場所を行政が提供する形にするのは1つの理想の形ではないか。公のメディコスという器の中で、インフラ管理は行政がするけど中身は思い切って外に出すというやり方が構築出来たらさらに面白くなるのではないか。
- ・行政と協議できる民の育成も重要で、メディコスの役割はその民を育てることでもあるのではないか。
- ・市民のリアルな声を拾えるのはメディコスだけなので、アンケートなどを実施し、メディコスの来館者にいかに発言させるのかを考えていくべき。
- ・メディコスと民間との連携の母体となるパイロット事業を分館で行うのも面白いのではないか。

② 世代交代につなげる人材育成について

(委員からの意見)

- ・図書館について会計年度任用職員の割合が多い。利用者のニーズを把握できる状況が作り出せていないのではないかと。職員の入れ替えをしないのも業務のマンネリ化につながってしまうが、研修等を通して少しずつ育ってきている職員を手放すのは非常にもったいないのもう少し長期的な任用で図書館の機能を上げられるのではないかと。
- ・メディコスでは非常に手厚いサービスが実践されている中で、メディコスのコンセプトを知らない市民は多くいるのもう少しコンセプトをわかりやすく掲げるべき。
- ・受付などの業務はその印象だけでメディコス全体のイメージにもつながるため、職員の異動等で新規スタッフが配属された際には、連携ならびに引継ぎを徹底する必要がある。
- ・部署間の連携については、縦割り問題等で業務が滞ることがないように市民が意見をできるようなグループを作ることにも有効的。
- ・メディコスが新しい組織でも古い組織のままでも構成する職員は互いにつながるべきで、仕事とプライベートが交じるようなコミュニティを庁内の中に作る、そしてそれを組織的に黙認する文化があるといい。また、そのコミュニティの中に民間の方を招いて民間のノウハウも取り入れていけると非常に面白いのではないかと。
- ・自分の縄張りの中だけで仕事をするとう縄張りの最適化を図るので、隣の縄張りの最適まで見えなくなる。それが縦割りの基礎になるので、「越境」する、垣根の外側の経験をすることが重要で、人事権のある範囲で越境をデザインすることは可能ではないかと。
- ・越境を経験している人はスーパー公務員になりやすく、その存在がいる自治体といない自治体で大きな差があるので、そういった存在を仕組みで生み出していくべき。
- ・岐阜市で行っている若手研修プロジェクトのメディコス版を企画し、今後メディコスが予算を取って進めていかなければいけない課題で予算を取れるように仕組むワークショップを開催してはどうか。
- ・アンケートを実施することで来館者の声が拾えることに加えて、その声がスタッフのやりがいにもつながると思うのでメディコスで積極的に市民の声を拾うべき。
- ・アンケートに答える過程の中でメディコスへの愛を再確認してもらうような仕組みで声を集めることができれば、新規の人はもちろん、もともとメディコスを愛している人の愛着が増す企画にもなるのでは。
- ・職員のコミュニケーションスキルの得意不得意もあるが、積極的にまちに出て地域の人たちと関わりを持っていくことが、愛される施設につながるのではないかと。
- ・来館者にメディコスを愛してもらうためには職員の接遇が非常に重要。
- ・「メディコスが今後も愛され続ける」これを内向きで持つメディコスのバリューとして確定させておくことで、いざ何か判断に迷って立ち戻るとき、このバリューに沿っているかどうかで判断することができると思うので、このバリューを大切にすべき。